

ちよなばだ 手紙集 全七巻

편지

第五巻

5

韓国留学記

遠回りした日々

この巻はぜんぶで9話・約60分

韓国語と、ぼくの話。

ちよなばだ

ちなばだ 手紙集 —— 全七巻

少しずつ、全部そろろうように。読み終えたら、次の巻へ。

第一巻 思考の自由

第二巻 遠回りをやめる

第三巻 自分のやり方を見つける

第四巻 失敗だらけの、ぼく

第五巻 **韓国留学記**

この巻

第六巻 世界が広がっていく

第七巻 調子に乗っていこう

第五巻について

留学時代の一日、ゆずってもらったテキスト、空港で出会ったお姉さん。遠回りだらけだった、ぼくの留学の日々の記録です。肩の力を抜いて、どうぞ。

目次

- | | | |
|----|-----------------------------|----|
| 29 | 韓国留学時代の一日のスケジュール | 5 |
| 30 | 格安でテキストを譲ってもらってラッキー | 17 |
| 31 | レディースの元総長に怒られた話 | 24 |
| 32 | 中間テストで「負荷」をかけたのが話せるきっかけになった | 35 |
| 33 | ときたま思い出す昔の話 | 49 |
| 34 | 仁川空港のお姉さんがぼくの人生を変えた | 63 |
| 35 | 何も関係ない、ぼくの幼稚園の話 | 74 |
| 36 | 上海に行ってきました | 83 |
| 37 | フランス語、はじめます | 89 |

韓国留学時代の一日のスケジュール

——約8分で読めます——

こんにちは、ちなぼだです。以前、新潟にスキーしに行って思い出したのですが。ぼくはむかし北海道に住んでて授業でスキーを習ってたクチなのでスノボじゃなくスキー派です。

小4のときに東京から札幌に引っ越してゼロからのスキーだったので最初はスクールに入れてもらいました。ほんの5日間ほどのやつ。もちろん泣きそうな状態からのスタート。

でも同じレベルの子たちばかりなので安心。泣きそうになりながらも、何度も転びながらも、徐々に上達していきました。

で、5日間を終えて、学校の授業でのスキーにのぞみました。

みんな道産子だから、さぞかしうまいんだろうと思ってたら、なんとぼくは中の上ぐらいの腕。スクールできちんと学んだら、ほんの数日で追いつけちゃったんですね。よく言うじゃないですか。

「**習うより慣れよ**」と。でもね、それってウソなんだとぼくの言語学の師匠は教えてくれました。「**習う『より』慣れよ**」じゃなくて「**習って『から』慣れよ**」なんだよ、と。自己流でやるより、最初にちゃんとやり方を学んだほうがその後の上達がずっと速い。

木を切る前にきちんとノコギリの刃を研いでから切ったほうが結果的には早く終わる、みたいなイメージですね。そのことをぼくは、小学校のスキーで実感しました。韓国語も一緒なんだよなあやみくもに生産

性の低い勉強をしても効率悪いということはぜひ知っておきたいなと思いました。

さてさて。韓国留学記の続き。第6回目ですね。9ヶ月で6級までいくために飛び級したかったので頑張ることをとうとう決めました。そして飛び級基準が「**90点以上の成績**」だったので、クラスの上位に入るイメージです。

いかにして、落ちこぼれからクラス上位に行くか。ぼくは考えました。今までは、嫌いなこともいやいややらされてきたけど、韓国語は自分がやりたくて自ら選んで始めたもの。

留学も、自分で決めて「**韓国語だけを勉強し放題**」という環境になりました。しょうがない、一生懸命やってみよう、クラス上位の成績をとれるまで頑張ろう、そう決めました。

本当に飛び級できるかどうかはわからなかった。でも、やらざるを得なかったのです。やらない限りは、目標は達成できないからです。つべこべ言っている誰もぼくの韓国語力を魔法をかけて引き上げてはくれないからです。

韓国語ができるようになるには自分が勉強する以外の方法はありませんからなのです。というわけで目標設定です。無能力な自分をなんとかしたくて自己啓発本もたくさん読んでたぼくは目標設定のやり方は知っていました。

目標を立てるときはふわっとした目標ではいけないと書いてありました。いろいろと条件はありますが、その要のひとつは、**「自分でとる行動」**まで明確にするということです。

たとえば「3ヶ月後までに10kg痩せる！」は目標としてはいい。数字も入って

るし、期限もある。でも・・・そんな目標を立てた3ヶ月後、「ああ、思ったほどやせなかったな。やっぱりダイエットは難しいね」

と言ってる人はおよそ100億人いますよね。でもこの目標が達成されないのは当たり前で。「達成までの道のりが不明確だから」なのですね。痩せるためには、必ず今とは違う状況をつくらねばなりません。

何かを変えなければ絶対に違う結果はやってこない、という単純な話ですね。つまりは自分が何かアクションを起こさねばならないってこと。そしてアクションを起こすためには「自分がどんな行動を取るか」をはっきり決めなきゃいけないってことなんです。

たとえば「週に3回ジムで30分走って食事の白飯を半分にする」とかとか。「自分がどんな行動をとるか」まで明確にしない

とゴールにはたどりつけないんですね。これをやらず、ふわっと「痩せよう！」と言ってるだけでポテチを食いまくったり気まぐれにジョギングをしてみるだけじゃあそりゃあ望ましい結果は出ないよ、ということなんだそうです。

目標設定の仕方については大切なことがほかにいくつもあるんだけどそれはまたいつか。で、当時ぼくはそんなこともあいまいにしかわかっていなかったけど、とにかく「**クラスで上位に行く**」という目標では、どうやっていいかわからないと思った。

だから、とりあえずこう考えました。

「**クラスで一番たくさん勉強したら上位に行けるだろう**」これは決して良い目標設定ではないんだけど、とりあえずこれ以外指針がなかった。

みんなより急角度で成長するためにはたくさん勉強する以外ないと思った。クラスのみみんなに追いつき、追い越すためには、量で勝負するしかないと思った。なので、とりあえずこれを目標にすることにした。

「クラスの誰よりもたくさん勉強する」

自分で、やる、と決めたことだからやるしかなかった。とにかく飛び級がしたかった。6級に行くために韓国に来たんだからなんとしても行かねばならなかった。

でも、「**クラスで一番勉強する**」と思っても誰がどれだけの時間勉強しているかなんかわからない。だからどれだけ勉強すればいいかわからなかった。だから、「自分でできる限りたくさん勉強すればいいだろう」ということにした。

べつに本当に勉強時間で一番になる必要はないから、ゆるく考えた。自分の思う、「これだけやればクラスで一番たくさん勉

強した人になれるだろう」というぐらいでよしとすることにした。

「できるだけたくさん勉強する」驚くべき地道な作戦の誕生でした。もはや作戦とも呼べないけど。そして、こんな生活が始まった。朝8時に起きる。アジュンマのつくるニンニクの効いた朝食を食べる。

あ、下宿は男女ともいたんだけど、食卓が女子部屋の真ん前で。女子たちが起きてきて顔も手も洗わずおはようも言わずパジャマのまま、だまって朝食を食べだすのには若干のカルチャーショックを受けたw歩いて7分ぐらいの学校に行く。

途中のコンビニで「胃力」という乳酸菌ドリンクを買う。辛さとニンニクにお腹がやられててほかの日本人の「これ飲んだらいいよ」というアドバイスに従って毎日買ってたw9時から13時まで授業。

13時からクラスメートとともに近所の食堂でランチ。チュクポックムという豚の炒め物定食がお気に入り。クラスメートとバイバイして学校の図書館に行く。そこで今日の復習と次の日の予習。

それが終わったら一旦は自由時間。ソウルの町をふらふら歩いてどっかのカフェで本を読んでいることが多かった。ソウルでも割高な日本の本を買って毎日読んでた。下宿に戻ってアジュンマのニンニクご飯を食べて、しばしゴロゴロ。

夜にはまた別の図書館へ出かけて行った。韓国の大学は、24時間の図書館もけっこうあって。みんなすごい勢いで勉強している。それこそ、司法試験を受ける勢いで。そういう環境に囲まれながらぼくも勉強をした。

気がついたら日をまたいでいることもあった。そうして下宿に帰って、シャワー

の順番待ちをし、ちょっと何かしてから寝た。大きなマートで買ったうすーい布団の肌触りがお気に入りだった。

オンドル部屋は暑かったけど緊張から来る疲れもあってよく眠れた。そしてまた次の朝を迎えた。というような日々を送っていました。毎日がそううまくはいかなかったけど。というか実際にこんな日を送れたのは4-5日に1回とかで、夜は勉強しない日もあったけど。

それでも、自分で、韓国語を身につけると決めたから。就職活動をやめて、韓国まで来たから。なんとしても、成果を出さなきゃと思っていた。**結局、勉強の成果っていうのは「勉強時間」×「歩留まり（何%定着したか）」**

なわけで。ぼくは、歩留まりのほうは高かったと思う。普通の人が20%とかのところぼくは50%ぐらいでやってたとは思う。

自分の無能を補うために、勉強法の本をいやほど読んで実践してたからね。

ということで、6級へいくため「**クラスで一番たくさん勉強する**」という目標を立て、自分なりにできる範囲で頑張りました。確かに、勉強効率は重要なんだけど、量は絶対に必要。

だってね、韓国語を身につけるのに100の勉強が必要だとして、効率10で勉強時間1だったら、 $10 \times 1 = 10$ で全然足りない。効率2勉強時間50合計 $2 \times 50 = 100$ の人に負けちゃうわけ。

いくら効率が10でも、勉強時間もある程度積まないと絶対にできるようにはならないからね。だから、ぼくは、勉強効率も上げて、勉強時間もたくさん取って早く身につけましょう、という提案をしているのです。

ただし、その努力を苦しんでやるか、楽しんでやるかはやり方次第。ぼくは、それを、楽しんでやったらいいんじゃない？ということも思ってるわけです。ということで、「**ひたすらに勉強する**」という選択をしたぼくは、実際どうなったのか？

そのあたりからはまた次回。今回の話で「**やっぱ勉強せなあかんのかあ**」ってめげちゃう人もいるかもだけど。でもその量って、英語とかと比べたら信じられないほど少なくて済むから。

学生時代にやってきたいろんな勉強に比べたらはるかに楽だから。きちんと勉強量をこなした人でできるようにならなかった人をぼくは見たことないから。そのあたりはご安心のほどを。

韓国語を身につけるために必要な勉強時間の話とかは動画でも語ってるのでよろしければこちらもどうぞ。ちなばだ

格安でテキストを譲ってもらってラッキー

——約5分で読めます——

こんにちは、ちなぼだです。あいさつもそこそこに、長くなってしまってる留学記シリーズ7回目。ぼくが在籍していたのは語学堂の3級でした。で、来学期には4級を飛ばして5級へ行こうと思っていた。

つまり4級の勉強をまるまる飛ばすことになります。どこかで補（おぎな）わなきゃいけない。じゃあどうしようかなああと考えると、いつものようにソウルナビを見てた。ソウルナビって掲示板があって。

そこで、現地で生活してる人の「**売ります**」「**買います**」みたいなコーナーがあったのね。今はあるか知らんけども。そこ

で、見てたら、「帰国するので、語学堂で使ってたテキスト譲ります！」

みたいのがあったの。別の学校のやつだったけど。 ぼくは「これだ！」と思ったね。どっかで補わなきゃいけないのなら自分でテキストを進めればいいじゃないという話。どんな勉強するか決めるときも

「**バックキャスト**」が大事だって英語通訳で環境ジャーナリストの枝廣さんの本にも書いてあったよね。

ゴールを決めて、その状態を実現するためにやんなきゃいけないことを逆算して割り出すっていう。ぼくのゴールは、6級までいくことだった。**でも今は3級**。その間を埋めるには、3級、4級、5級分の勉強をクリアしていかなきゃいけない。

そのためには、各級のテキストをだいたい理解していくこと。じゃあその穴を埋めるために、3級、4級、5級のテキストを

自分で進めよう。というような作戦ね。だから、「語学堂のテキストゆずります！」って申し出は、渡りに船だった。

ちょうどよかった。ぼくにぴったりだった。ということで、確か建国大学の方だったと思うんだけど、連絡をとって、大学の近くまで行って、通りにあった「**独島寿司**」という名前の寿司屋にビビりつつ、無事、合計5,000ウォン（500円ぐらい）という激安の対価で3級から6級までの違う大学のテキストをゲットした。

自分の学校のテキストと並行して、建国大のを自習でやっていったわけなんだけど、好都合にも書き込みがびっしりしてあって単語の意味とかも全部書いてあった。ぼくは「**辞書を引くのは時間の無駄**」派だからあらかじめ意味を書いてくれるのはとてもありがたかった。

というわけで、ぼくは高麗大の3級のテキストを進めつつ建国大の3級のテキストを進めていった。おんなじレベルではあるけど説明の仕方が違ったり、違う項目が出てきたりで知識を定着させるのにすごく役立った。

こういうふうには、同じレベルの内容を別角度から学び直すのは勉強の「**歩留（ぶど）まり**」を高める上で非常に効果的。だから「レベル1終わったらレベル2に行くんじゃなくてまたレベル1の別教材やんな」

と言ってるわけだね。もちろん各教材の復習は前提ね。浅い理解度でいいからとにかく前に進んで、最後までいったらまた最初に戻って繰り返すっていう。はじめから100%目指してやり込むより記憶の定着いいからね。

なのに学校の勉強の洗脳を受けてきた人はいきなり100%になんかきゃいけないと思って泣きそうになりながらもそもそも脳科学的に不可能なことにいどむわけ。悲しい話。ということで、「**クラスで一番たくさん勉強する**」という目標を立てたぼくは、**新しいテキストを含めどんどん進めていった。**

3級クラスに滞在している間に4級のテキストまで終わらせようと思った。理解が浅くていいと決めたら「これ難しすぎる！」とかって立ち止まらず済むしね。難しく当たり前だから。

わかんなくて当然。1周目は4割の理解でいい。何ごともだけど、完ぺきを目指さないが吉。「**できないこと**」じゃなくて「**できること**」に目を向けるのが自分を勇気づける良い手だからね。

で、学校では毎週月曜の朝に1週間のまとめ小テストがあった。ぼくは成績を90点とって飛び級しなきゃいけないから、とりあえず小テストで毎回90点を取りたいなと思っていた。

だから小テストをペースメーカーに勉強をしていった。自分で自分を管理できる人ならいいんだけど、そうじゃないぼくみたいな怠け者は外部要因を利用して、強制的にやる体制をつくったほうが楽なんだよね。

そのほうが心がラクなの。人って潜在的に、「自由」を一番もてあましてしまう生き物だから。自由だと、何をしようか自分で考えなきゃいけないからね。脳みそを使う。つまりカロリー消費が高い。

疲れるわけ。人に管理してもらったほうが自分でエネルギーを使わない分、ラクだと感じるんだね。特にぼくは時間管理が人

より下手でペースをつくれな人だから毎回の小テストがあってとても助かった。

テストに出る範囲は、先週やったところだけ。ちょうど良い復習になった。落ちこぼれてはいたけど、決められた範囲からしか出ないから単なるやり込みゲーだった。同じ範囲を反復して学べばよかった。

そうしてぼくは、毎回90点以上をとっていった。しゃべりは相変わらず得意じゃなかったけど、でも、あるとき、転機が訪れた。ぼくの韓国語能力に一気に革命が起こった。(つづく)

ちなばだ

レディースの元総長に怒られた話

——約7分で読めます——

こんにちは、ちなぼだです。今日は、韓国語との関連はうっすーい話なんだけど、あのね、レディースの元総長に怒られたことがあります。レディースっていうのは女性だけで構成された暴走族のことね。

詳しく言っちゃうと1人に特定されちゃうからけっこうあいまいに書かせてもらっただけど。最初見たときは、すごいキレイで、雰囲気のある人だなと思ってたわけ。しみ出るヤンキー臭は消せてなかったんだけども。

「元ヤンなのかなあ」ぐらいにしか思ってたなかった。でも、話を聞くと、なんとか

なり大規模なレディースをつくりあげ、自らの代で解散させた人だった。**曲がったことが大嫌い。**

レディースにもルールをつくって、徹底させてた。「**浮気禁止**」とか。「**仲間は絶対裏切らない**」とか。十代の、あるコミュニティに属する女性にとって大切な価値観に基づくものだったわけなんだけど。

中学生にして、そこそこの規模のビジネスを手がけていた。**今とは違う時代の話だからね。** ネットが発達した世の中なら、中学生でもネットショップとかできるしビジネスはある程度容易だけど、むかしはガチの時代。

リアルに人を動かして、世の中の問題解決をしてたわけ。話を聞いていく中では、映画やドラマにさえならないような、普通の人には想像できないことも登場した。中

学生・高校生のときから数々の「**本物の修羅場**」をくぐり抜けてきた人だった。

人をまとめあげ、自分が思うよい方向へ導きたいと願っていた。そうして「**レディース活動**」に心血を注いだ人だった。そんな彼女は、熱さはそのままに大人になっていた。旦那の借金を返し、企業を再生し、グレた若者たちを雇い、立派な起業家になっていた。

そこからもう一段、高みを目指そうとある講座に参加していた。**ぼくもそこで出会った**。3日間で18万円の講座で、ぼくはこのぐらいの価格帯は「**安い**」と即決するタイプなんだけど。

だって自分への投資こそが何より将来の大きなリターンを生み出すからね。先を行く人がその知恵を分けてくれるんだから望むものに到達する期間が短縮される。何よ

り貴重な、人生の時間（＝命）をお金で買う感覚。

いつまでも独力で「わからない」「できない」「やる気が出ない」って言って何年も停滞するのはもったいないとぼくは思うからね。「秒単位」や「分単位」での節約に敏感な人は多いけど、それより「年単位」で節約したほうがトータルいいんじゃない？って話。

それで、飲み席で、いろんな話をしてた。ぼくは当時20代後半で、なんとか自分の行く道を切り開きたいともがいていた。当時ぼくは、今のぼくのプロフェッショナルへのキャリアを歩み始めたばかりで、たいした実績もなかった。

その場にいたまわりの人は、芸能人に歌唱指導をしているシンガーとか、その後ベストセラー作家になった人とか何年も経営

者をやってるような人ばかりだったから、ぼくはただただ引け目を感じていた。

それでもみんな優しかった。仲間として受け入れてくれた。本気で仲間と思ってくれていたからこそ厳しい言葉もくれた。ぼくは、いわゆるうじうじしていた。進みたい、でも進めない、本気になりたい、でもなれない、そんな状態だった。

なんというか、自分で自分を「仕方ないじゃん」「できなくてしょうがないじゃん」と、「こんな私をゆるして」感が全面に出てしまっていたんだと思う。すると、元レディースさんが、にこやかに切り出した。

「あんな、ちよなぼだちゃん、うち、自分ができると思って何もせん人キライやねん。ちよなぼだちゃんがそうやゆうてるんちゃうで。せやけどな、どうしてもなそう見えてまうねん」

いつの間にか彼女の顔つきが真剣なものになっていた。「あんな、自分が五体満足に生まれて、それで自分のことばかりで、恥ずかしくないん？人のためになんかしようと思わへんの？

ここにいるみんなな、そんなん苦しんできてんねん。悩んできてんねん。それでもな、人のためにな全部さらけ出す覚悟を決めてきてんねん。ちなぽだちゃんのゆうてることはな、全部『**自分がかわいい**』としか聞こえへん。

なあ、それでいいん？ほんまにそんなん
でいいの？」

・・・というふうにな、
怒られたことがあったの。

当時は、よく理解できないこともあったけど、そして素直には受け入れられないこともあったけど、でも、彼女のまっすぐな

言葉はぼくの心に刺さって。そこまで真剣に生きている人がこの世にいることにも感動して。

ことあるごとに、ぼくは元レディースさんの言葉を自分に問いかけるようになりました。恵まれてるか、恵まれてないかで言ったら、ぼくたちは、確実に恵まれている。それも、かなりのレベルで。

だって今、この文章を読めているってことだけで、かなり恵まれてることが証明されてる。日本語ができる。漢字が読める教育を受けてきてる。ネットにつなげる。昨日も一昨日も飯が食えた。

きれいな水が飲める。たぶん裸じゃなく、着るものがある。それだけのことが実現できてるのって世界に何%いるんだらうね。ましてや、「**韓国語を勉強しよう**」という余裕まである。

誰に「韓国語やれ！」と言われたわけでもないでしょう？自分ですすんで始めたんでしょう？単位のために必要と言っても、そもそも学校で学んでることすら究極的には自分の選択だし。

あ、ちょっと話がそれた。それたついでにもっとそれるけど、そう言えばね、目標達成の1つの秘訣はね。「他人に与えるメリット」を考えるってことらしーよ。自分のためだったら、がんばれない。

達成できなくても、迷惑をこうむるのは自分だけだから。つい甘えが出る。でもね、「他人のためだったらがんばれる」ことって、あるでしょう？自分がこの目標を達成することで、他人にはどんなメリットがあるか。

具体的に1人あるいは複数の人物を思い浮かべて、その人のために頑張るという発想。たとえば、韓国のアイドルグループな

んか、自分のためだけにやってると思う？
それで、過酷な練習とかハードなコンサートスケジュールとかこなせると思う？

たぶん、ほかのメンバーと一緒に最高のコンサートをつくりあげるためとか、わざわざお金を出して、遠くから時間を割いて足を運んでくれたファンに喜んでもらえるようにとか故郷のお母さんを安心させるためとか、なんかそういう自分だけでない、

「他人を想う気持ち」

って、絶対に力になると思うんだよ

ね。ってか目標達成の技術では、方法論として「**他人のためを考える**」ってのも組み込まれてるぐらいだし。というわけで、もし、自分のためにがんばれないって感じたことがあったら、「自分が韓国語できるようになって誰がよろこんでくれるかな？」

「誰の人生を、ほんの少し良くできるかな？」って考えてみたらいいんじゃない？

脳科学的にもね「**利己的な人**」（自分のため）と「**利他的な人**」（他人のため）では脳の活動部位が違うんだってよ。

ポイントは、「**他人のため**」に好んで行動するほうが「**自分のため**」にもなるっていう。自分のためばかりだと単純に、視野が狭いし、視点が低いし、世界が小さい。目の前の小さな画面ばかりに目をやって自分の世界に閉じこもってないで、目を上げてほかを見て暮らしたほうが世界が明るいでしょ、って感じかな。

まあ、そんな感じで、別に今回の話であなただにどうこう思ってもらいたい、という意図はないので。感じ方は当たり前だのご自由に。ただ、ぼくはぼくなりやり方でああなたの人生の可能性を少しでも広げることができたらなと思って書いてるんだ。

韓国語の勉強法を語るとかもその一旦だね。ということで、また留学記や勉強法な

ど書いていきますね。ばいばい。ちなば
だ

中間テストで「負荷」をかけたのが話せるきっかけになった

——約9分で読めます——

こんにちは、ちなぼだです。留学記の9回目です。4月に韓国に渡り、5月中旬に初めての「**中間テスト**」がありました。この「**中間テスト**」と6月中旬の「**期末テスト**」の成績でその級での評価が決まります。

ぼくは飛び級をしたかったので90点以上が必須。この中間テストは、非常に大事な物でありました。ぼくはこのテストを境に「**耳が開（ひら）く**」という経験をすることになります。

要は、言われている韓国語がわかるようになったし、それに対する返答も自然に口

をついて出るようになったのです。中間テストへ向けてぼくは今まで以上に必死におべんきょうをしました。

範囲が決まっているのでその範囲を何度も繰り返し復習するのです。「一夜漬けはすぐ忘れるから意味がない」と言う人もいますが、まあそんなことはありません。

ちゃんと長期記憶に送ってやらないから忘れてるだけなんですよ。

記憶の仕方は以前にメルマガで2-3回書いたと思います。思い出すことを主体でやる、ってやつですね。いやほんと、1. 頭に入れる 2. 忘れないよう保つ 3. 頭から取り出すの3段階をやらんと長期記憶に行かないのよ。

一夜漬けでそのあと全部忘れちゃうって人は、「**1**」しかやってないんだろうね。定着させるためには「**3. 頭から取り出**

す」ありきでやること。つまり、**何度も自分に問うて、思い出す練習をする。**

何度も何度も。「**あー、なんだっけ**」と思ったらすぐ確認する。書くなんて非効率なことしないで頭のなかで思い出す。だいたい鉛筆持って書いてると、「**勉強した気**」にはなるけど、実際それで定着するかどうかとは関係ないからね。

子どもが鉛筆持って書いてると「**ちゃんと勉強してるわね**」ってママは思って安心する。子どもは、鉛筆を持って書いてる限りは怒られないから「**これでいいんだ**」と思って書き続ける。

そうやって、非効率な勉強法を子どもは覚えていっちゃうんだよね。それより、たとえば布団に寝っ転がっていようが、外を散歩しながらだろうが、「**頭の中で思い出す**」あるいは「**人に説明するように口に出す**」

という行程を何度もやったほうが記憶の定着はいいのにね。でもそんなやり方だったら「ちゃんと勉強しなさい！」って叱るじゃん。それで、非効率な勉強を身につけてしまう。

ああ悲しい現実。「**いやでも学校でそう習ったし**」って言うのはわかるんだけど、でも一般的な学校の一般的な先生のそもそもの目的は成績を上げることじゃないからね。※もちろん例外もいます成績はもちろん上がったらいいよ？

でも、それよりも、みんなが足並みをそろえて平均的レベルをクリアすることのほうが大事。問題を起こさないよう、「**管理**」することに注意が向いてるのがほんとのところだと思うんだ。

管理する側からすれば、生徒たちが机に向かって鉛筆を持って書いてるって状態が一番わかりやすい。「**ああ問題起こしてな**

いな」って一見してわかるからね。ぼくとかは、目をつぶってる状態が一番頭がはたらいってるんだけど。

でも目つぶってたら「居眠りするな！ちゃんと目を開けてやれ！」とかって言うでしょ？それで仕方なしに効率の低い勉強とかをやらされるわけ。悲しい話。まあそういうことで、一夜漬けだって、ちゃんと長期記憶に入れようって意識でやればちゃんと定着するんだよね。

もちろん、何回も反復することは「**必須**」だけど。それより書いてるだけで実際は全然覚えられてないのに勉強した気になってるほうが結果的には身につかないと思うんだ。また話が反れた。

そいでね、ぼくは、テスト前に集中して一気に大量の勉強をした。そうしたら、驚くべき変化が起こった。「**話し**」のテスト

中。先生とマンツーマンで会話をするんだけど。言ってることがわかる。

いや、習った範囲の言葉しか使わないから当たり前なんだけど。意味が飛び込んでくる。返答も、すらすら出る。なんだこれは???こんなにしゃべれるはずはないのに。こんなに聞こえなかったのに。

なぜか突然、聞こえるし、しゃべれるようになった。それでテストは90点以上をそろえた。いや、3級のテストなんでみんなたいてい高得点とるんだけど。このテストを境に、ぼくはちょっと韓国語に自信がついた。

聞こえる。話せる。で、これも今になって思うことなんだけど、語学の習得にかぎらず、何かのスキルを習得するときって

「**シグモイド曲線**」に従うと言われてるんだ。アルファベットのSの形を縦に引っ張って伸ばしたような、スタート時は地を

はうような感じである時急激に傾きが大きくなるっていう。

「はじめはなかなか上達を実感できないけど、あるポイントを境に急に上達する」みたいなね。形がよくわからなかったら「**シグモイド曲線**」を検索してくれたらいいんだけど。

ぼくははからずも、試験前の大量勉強で、この「**上達ポイント**」を迎えてたわけ。試験前、短期間に大量の韓国語を処理することで脳みそに大きな負荷をかけてた。で、脳みそって、進化するんだよね。

何歳になっても。「もうこんな年齢だから覚えるのがつらくて」っていうのは、脳に負荷をかけてないだけ。年齢は関係ない。脳って、原則があって

- ・使わない回路はおとろえる
- ・使う回路は発達する

んだよね。だから、しばらく頭に負荷をかけて記憶する、ってことをしてないと記憶するための回路がおとろえてる。大人になって「**記憶力落ちた**」って感じるのはこれが原因じゃないかと思ってる。

学生時代ってなんだかんだで頭に負荷かけてたでしょ？テストだなんだって、記憶する回路をはたらかせてたじゃん。でも大人になってから、そんなに必死で記憶する回路を使うことってない。

だからおとろえてる。それだけの話。また必死で記憶する毎日に戻れば記憶力は、若いとき以上に上げることだってできるんだね。記憶力は、鍛えれば伸びる。これって実験とかもされてて。

めっちゃ負荷をかけ続けたら信じられないほど記憶力って伸びるんだってよ。たとえばランダムな数字を何桁まで覚えられる

かって言ったら、まあ普通は6つとか7つぐらいじゃん。

いやぼくはそんなに自信ないけど。それが、30ケタとか60ケタいくんだってね。別に特別な記憶法を使わずに。ただただゴリゴリの暗記で。まあそういう感じ。で、中間テストではさ。

強制的にしゃべらなきゃいけないわけ。

「話し」のテストなので話さなきゃいけないの。特に90点とりたいぼくは必死だった。この経験がよかった。無理矢理にでもしゃべる。

これ。日本の人ってけっこうね、恥ずかしがり屋じゃん。だから、外国語を話すことにすごい抵抗があったりする。しかも、日本の学校教育は「上手に話さないほうがエライ」みたいな雰囲気ってあるじゃん。

変な同調圧力。英語だってさ、みんな「わざと」日本語的な発音にするでしょ？

いっと いず あん あっぷるみたいな。間違ってもあぼーって発音しないじゃん。ほんとは あぼー 的な発音のほうが元の音に近いし通じるのに。

なのに あぼー って言ったら笑われるでしょ？「あいつ何ちょうしのってんだ」って。だから外国語を話すことに恐怖感を覚えちゃってる人が多いわけ。でも・・・しゃべる練習をしないとしゃべれるようにはならないわけで。

自転車だって、実際に乗る練習しないと、乗れるようにならない。そんな感じ。で、めっちゃ追い込まれて実際、やってみたらしゃべれたりするんだよね。もちろん、一発じゃ無理だよ？

それでも、めっちゃ頭に負荷をかける絶対しゃべらなきゃいけないって状況を何度かつくったらけっこう出てくるんだよね。

もちろん完ぺきじゃないよ。でも、通じる言葉が出てくる。

「**お酒を飲んだら話せるんだけど**」って人もこのタイプだよね。だから、とにもかくにも、一回話す。話すという状況をつくる。そして、案外通じたという経験を持つ。これが、喜びにもなるし「韓国語を話すってこういう感覚なんだ」

というのをつかむ良い契機にもなる。だからね、ぼくにとってテストで無理やり話さなきゃいけないって状況をつくるのがよかったというわけ。普段は「**いまいち話せないんだけど**」と思ってても、どうしても話さなきゃいけない状況に追い込んで無理矢理に話してみる。

その結果、案外通じる。**この通じさせるにもコツはあるんだけど、とにかく、話して、感覚をつかむ。**これがすごい大事なわけ。人って、負荷をかけないと成長しな

い。でも、日本の学校の教室のようにバカにされる環境だと挑戦もできない。

だから挑戦しなくなっちゃう。でもね、**絶対安全な環境をつかってそこで適度な負荷をかける**。それがいいんだよね。それがぼくにとって、テストだったってわけ。ぼくが参加してた、6回で参加費200万円の語学講座は、いきなり「**じゃあ英語で自己紹介して**」

ってやらされた。もちろんみんなたどたどしい。でもめっちゃ投資してるしそもそもみんな「**絶対上達しようぜ**」という目的を持ってるからばかにする、なんて低レベルなことはしない。

だから、みんな、下手くそながら安心して英語をしゃべった。冷や汗をかきながらも、英語でスピーチをしたりした。これがすごい自信になった、ってみんなゆってた。ということで、まじで書きたいことが

どんどん出てくるからこの辺でやめとくけどしゃべるための練習方法があるっちゃあるんだけど、それはまたいつか。

こんな感じでぼくは中間テストで

- ・テスト前に短期集中でめっちゃインプットする

- ・思い出して口に出すことで何度も何度もアウトプットの練習をする

- ・先生とマンツーマンで無理やり話す体験をすることで「話す感覚」をつかむ

という過程を経て、おどろくほど聞けるし、話せるようになった。という感じ。韓国に渡ってから1ヶ月半での出来事だった。ちなみに、この「わかった！」って感覚は、英語のときは2ヶ月、中国語のときは3週間で訪れた。

英語と中国語はそれぞれまた違う勉強法をやったんだけども。でも、ほかの外国語でもやっぱり同じようになるとき「**耳が開く**」感覚はあるんだなと実感した。ということで、ぼくは中間テストを90点以上の成績で乗り切り、話すことに少し自信を持った。

そうなると、クラスメートのめっちゃペラペラしゃべってたバングラデシュ人の彼の韓国語がうまく聞こえたカラクリが見えてきた。(つづく) ちょなばだ

ときたま思い出す昔の話

——約10分で読めます——

こんにちは、ちなぼだです。ときどき、ですがぼくには思い出すことがあります。くるしい思い出。でも、それが今ではすごく良い教訓になってる。いつものことだけど今日はすごーく長いし韓国語勉強と関連うすいしぼくの個人的な思い出話をするだけだから読みたくなかったら飛ばしてまた次のメールから読んでね。

ぼくは、このメルマガで、韓国語の勉強法も伝えるし、そのほかのことも伝えるよって言ってますよね。でも共通点は、たとえば、すべては、あなたの可能性を拓くことに興味があるんですね、ぼくは。

あなたに合ってたあなたの想像してるよりもっと広い世界と触れ合ってたいい感じ

の人生送れてるぞって感じになることをね。**伝えたいと思ってるんです。**というのもね、自分の可能性を閉ざしちゃってる人が多いと思ってる。

それは環境のせいかもしれないし、親の期待のせいかもしれないし自分の思い込みのせいかもしれないしいろいろ状況はあると思う。それでも、やっぱり人生は一度きりだということをちゃんと認識しておいてくれたらいいなということをぼくは強く思うんだよね。

なぜ、そんなことを今いい出したかと言うと今から数年前の春。ぼくはだんだんと、朝起きられなくなりました。別に夜更かしをしてるわけじゃない。週末や有給の日はめっちゃ朝からぼっちり目が覚める。

でも、平日は、会社があるときは、どうしても、朝、なかなか起きられなかった。家と会社が近かったことが功を奏してか、

遅刻には至らなかったけど、とにかく朝がつらい。昼になれば逃げ出すように一人になれる空間を探したし、この頃にはちゃんと笑えなくなっていた。

というのもですね、ぼくは当時、営業を志望してたものの、ペーペーだったので事務職を任されてまして。**営業事務ってやつね**。それでぼく、ミスばかりだったのね。**いやまじで**。

ぼくのマスが原因で、別部署のおえらいさんが飛んできて上司が叱られてたこともあったし同期にも説教される始末。「**ちなばだ、間違えすぎ**」って。「**会社がつぶれます。どうかちゃんとやってください**」

って別部署の、やさしい先輩から長文メールが来たこともあった。**ほんとに申し訳なさしかない**。だってぼく、ほんとにミスばかりだったからね。**完全にお荷物だっ**

た。ぼくがいないほうが仕事がスムーズにまわるのは明らかだった。

ぼくも自分で苦手なのはわかっていた。向いてないことをやってることはわかった。いつも頭は真っ白だった。簡単なことなのにね。こっちに書いてある数字をそのまま打ち込む、とか。

そういうのがぼくはできない。無能だから。それで叱られてばかりだしミスで迷惑かけてばかりだし仕事がいやでしかたなかった。でもね、当時は、社会人経験もないしぼくに何ができるかもわからない。

とにかく目の前のことをこなすしかない。こなせてないけど。それで、笑えなくなったし朝起きられなくなったしそろそろ潮時だなどと思った。あてはなかったけどね。いや、甘い見通しはあったけど、まあでも不安のほうがずっと勝ってたってのが本当のところ。

でもね、無理だったわ。「**若者は3年で辞める**」とかが問題になってたときだったけどぼくは3年ももつなんてすごいなと心から思ってた。それで辞表を出したわけね。「**ぼくは無能だ**」

という思いがほとんどだったけど、「**でも向いてることがきっとあるはず**」という希望に、しがみつかざるをえなかった。そうじゃないと、ぼくは生きる意味を失ってしまいそうだったから。

・・・その2年後、
ぼくは生き活きと仕事してた。

自分に向いてたし、やってて楽しいし、結果も出た。けっこうな結果が出た。今に続くキャリアの礎も、このときにできた。ちゃんと笑えるようになった。進んで勉強したしどんどんスキルがついていくのが面白くて仕方なかった。

「自分にも何かできることはある」と、
少しずつ感じられるようになってきた。と
いうことがあったんだけど。ぼくが思うの
は人には「向き不向き」があるというこ
と。ぼくは事務には明らかに向かない。

脳の構造が、そうなってるらしい。脳の
一部分の機能が、人より弱いんだとよ。で
も、文章を書いたり、好きなことを勉強し
たり、頭で考えたりすることは、向いてる
と思う。で、向いていないことをやってい
るときには人並み以下の成果しか出ない
し、自分でもつらい。

でも、向いていることをやっているとき
にはそこそこの成果が出るし自分でも楽し
い。ぼくはこれを、やっと確信できるよう
になってきて。ハーバード大学の、ハワー
ド・ガードナーさんが「多重知能論」をと
なえてて。

人にはいろんな知能があるよって。絵を描くのが上手い人もいるし人と話すのが上手な人もいるし数学が得意な人もいるし体を使うのが得意な人もいる。それぞれ、才能だし、等しく評価されるべきだよということ言ってるのね。

だからさ、何かに向いてなくて「**自分はダメだ**」って思っちゃうかもしれないけどでもそれってたまたまそれが向いてないだけかもよ??? Aをやってダメだった人がBをやったらめっちゃうまくいったって例もいっぱいあるし、その反対にCはうまくいったのにDは全然ダメだったって例もたくさん。

これって単にさ向き不向きの問題じゃないかって。ぼくは思うわけ。それで今の世の中はこのあたりのマッチングがうまくできてなくて。ブドウづくりが得意な人が魚釣りをやらされてたり。

魚釣りが得意な人がキノコ採りをやらされてたり。キノコ採りが得意な人がブドウづくりをやらされてたり。それでみんなつらい思いするし、社会の生産性も下がるよね。ブドウづくりが得意な人がブドウづくりに専念したらいっぱい獲れる。

魚釣りが得意な人が魚釣りに専念したらいっぱい獲れる。キノコ採りが得意な人がキノコ採りに専念したらいっぱい獲れる。そうしてこそ、全体の生産性も上がるし、何よりやってる人がうれしい思いするじゃん？

よろこびを感じられるじゃん？「**私の人生、価値がある**」って思えるじゃん？そんな世界になったらいいなとぼくは思ってます。「**石の上にも3年**」とかはもはやナンセンスだよな。

どんだけ洗脳されてるんだと。高度成長時代の価値観を未だに引きずってるのか

と。もちろん、今やってることは、一旦全力でやってみるのもいいよ。だって全力を尽くしてみないとわかんないからね。

でもね、それでもやっぱりダメだったら、すぐ逃げたらいい。それでいろんなことを試してみたらいい。興味が向くことをやってみたらいい。最近ある人の話を聞いてね。事務職なんだけど、ミスばかりなんだって。

言われたことを忘れるし、期限すぎても提出されないし、おかげで自信もなくなって声が小さいし、失敗して泣いてるんだって。その人の話を聞いてると、他人事と思えない。でもね、その人、きっと事務職むいてない。

話を聞く限り。早く離脱したほうが本人にとっていいんじゃないかなとぼくは思うんだよなあ。ぼく、大学時代、アカペラやってたんですよね。伴奏なしで、4人か

ら6人ぐらいのグループでハモるってやつ。

あれ、おのおのが自分のジャンルで最高のパフォーマンスを発揮してそれが組み合わせあって、1つになるわけ。めっちゃきれいにハモれたときは倍音っていう1つに結ばれたみたいな音が出て、その瞬間の一体感がすごい。

自分は全体であり、全体は自分なんだっていう。社会だってね、うまくマッチングすればそうなるんじゃないかなと思う。誰もやりたがらないことはロボットやAI（人工知能）に期待して。

ただ、世界規模でそれをやるのはまだまだ難しいとは思ってて。でも個人レベルでそういう生き方を選ぶことはできると思うんだよね。自分がぴったりハマるところを見つけるっていう。

ぼくの仕事の仕方は、アカペラのとくに近くて。各分野のプロフェッショナルが集まって、プロジェクトチームをつくって、1つの計画を遂行するっていう。ぼくは、苦手なスケジュール管理とか事務とか対人折衝とかやらないでよくて、自分の得意なことに専念できる。

ほかの人もみんな、自分の得意なことだけを全力でやる。こういう仕事の仕方って、これから増えていくらしいんだけど、ぼくは今、これがすごく理想だなあと思ってるよね。ただ、これを読んでも人はみんなが仕事するわけじゃないだろうしいろんな職業の人がいるよね。

学生もいれば主婦もいればマジシャンもいれば忍者もいるかもしれない。だから、ぼくの言ってることは仕事に限らないし、主婦業かもしれないしボランティアかもしれないしいろいろな道はあると思うんだ。

だからもし、今、自分がうまくハマれてないなと思ってる人がいたら、それってあなたに向いてないだけかもよ？ってのをまず1つ問題提起したい。それでさ、いろんなことを試して行ってほしいんだよね。

やってみないとわかんないから。場合によってはどっかに転職するのもいいしフリーランスをやってみるのもいい。何か、好きだったこととか得意だったこととか思い出して、ちょっとずつやってみてほしいな。

学生だったら、何か1つ「コレ！」っていうものに徹底的にドハマリしてほしいし、それと同時に広く色んなことにも手を出してみてほしい。ぼくは無責任にすすめるけどね。もちろんそれに従う必要はないし自分で決めたらいい。

ただ、ぼくは、「世界はあなたが思ってるよりもっと広いかもよ？」ということは

伝えたい。人生一度きりだし。後悔したって誰も責任とってくれないし。そんな想いもありつつ、ぼくは韓国語の勉強法を伝えるとか、やりたいことをやってるわけ。

何かに挑戦するにもね「**自分はダメだ**」感がつのっちゃってるときにはなかなか新しいことをできないものなんだけど。昔のぼくみたいに「**無能**」「**愚鈍**」というセルフイメージがくっついちゃってるからね。

それをひっぺがすには「**自己効力感**」(=できると思える気持ち)を高めていく必要があって。そのためにはいろいろやり方はあるんだけど、1つには「**これならできた**」っていうのをつくっていくこと。

それをつくるのに、韓国語は、最適だと思うんだよね。あきらめさえしなければ、身につくものだから。それにバイリンガルであることって社会的にはけっこうすごいねって目で見られるから、自信もつく。

だからとりあえず何もないよって人は韓国語をやったらいいよね。もちろん韓国語の勉強自体が苦痛で仕方がないならべつにやめたらいいと思うけど。そうじゃなくて、韓国語を身に着けたいやっててうれしいたのしい大好きって人は、ぜひこのまま続けてほしい。

韓国語は、やればできるようになるからさ！！「**人には向き不向きがある**」とかその辺のことも、動画でしゃべってるので興味があればこちらもぜひ。寝っ転がりながらも適当に聞いてみてください。

【ちょなちえ#004】セブ島の空港でした
30万円相当の失敗に学ぶ韓国語学習

ではでは。ちょなぱだ

仁川空港のお姉さんがぼくの人生を変えた

——約7分で読めます——

こんにちは、ちなぼだです。さっきそこでおにいちゃんがハトを蹴っ飛ばしてるなどと思ったらハトのケンカを仲裁してたのでした。ちょっとほっこり。ほっこりついでに留学記13回目。

5級でまた始まった鬼のような劣等生生活。しかし3級のときの調子で必死に追いついた。中間テストを終えるころにはなんとかみんなに離されないぐらい実力がついてきた。5級も真ん中に来たということは、けっこうな実力がついたということ。

ペラッペラにはしゃべれないまでも会話に不自由することはなくなってきていた。このままいけば、5級を修了して、6級ま

でいけるだろうし、そしたら語学堂のカリキュラムを全部終えて卒業できるだろうなあというところが見えてきた。

先が見えてきたら、つまらなくなってきた。このままいって、6級まで卒業して就活に入って、就職かあ。もともとそのつもりで9ヶ月間の猶予で韓国に来たんだし、めでたく6級までいけそうで目的は達成しそうだった。

でもね、ぼく、先が見えると、つまらなくなっちゃうんだよね。そんな決まったレールに乗っかって、何か楽しいことあるのか？**って。そこで、悩み始めた。**このまま、韓国にいるのが正しいんだろうか。

正直、韓国での生活が楽になってきていた。みんなと同じペースでやってれば進級できるわけだし、前までのような必死さもない。**ぬるま湯な生活。**もはや長期旅行の様相を呈してきている。

貴重な学生生活の残り時間をこんなことに費やしていいのか？そんな気がしてきていた。このころには、「**韓国語ってできるんだな**」という実感を得ていた。むかしから夢見ていたバイリンガルというやつにほとんどなってるんじゃないかと思った。

昔は、外国語をしゃべれる人なんてほんの一握りで、すごい天才的な人だけなんだろうなと思ってた。でも韓国に来て、猫も杓子も誰もかも、韓国語をしゃべるのが普通という状況を目の当たりにした。

「外国語をしゃべるって、こんなもんなんだ」という感覚を、腑に落とすことができた。

・・・時はさかのぼって、
この2年半ほど前。

はじめて韓国旅行をしたとき。 空港の
チェックインカウンターの韓国人のお姉さ

んが、日本語で対応してくれていた。「窓際と通路側どっちがいいですか？」とかの質問だったと思うけど、流暢な日本語で話してくれて、ぼくはそれに「**窓側をお願いします**」と答えていた。

韓国ぐらいの距離であれば、窓側が好きだった。お姉さんは、「**確認しますので少々お待ち下さい**」と言って、コンピュータを操作していた。**日本語がうまいなあ**。きっと日本語専攻か何かなんだろうなぼくはそう考えていた。

日本語が上手な韓国人だったらそう珍しくはないことを、大学に来ていた留学生やガイドさんの存在でぼくは知っていたから、さほど驚かなかった。ただ日本語を、熱心に勉強した人なんだろうなと思っていた。

そして次の時、顔を上げてこちらへ話しかけたお姉さんの言葉は、ぼくを驚かせ

た。大げさに言えば、ある意味、ぼくの人生を方向づけてしまった。彼女の言葉は、日本語ではなかった。

彼女の言葉は、流暢な英語に変わっていた。英語でしばらくぼくに話しかけたあと、しまった、という顔をして、「すみません、窓側の席はですね・・・」と、また日本語に戻った。

ぼくはこのお姉さんの一連の行動に魅了されてしまった。**なんということだ**。この人は、日本語と英語が一瞬の間に切り替わってしまうほどその2つの言語が彼女の中では「**当たり前**」なのだ。

意識して、頭の中で文章を組み立てながら無理やり外国語をひねりだすのではなく、まるで母語をしゃべるかのように自然に口から出てしまうからこそ、突然言語が切り替わる、という現象が起こるのだ。

ということは、彼女は、韓国語、日本語、英語の少なくとも3ヶ国語を、流暢にあやつれてしまうというわけだ。**こんな若さにして**。ぼくが小さいころから憧れていた多言語話者というやつが目の前にいた。

かっこいい。ぼくもそうになりたい。多言語を流暢にあやつりたい。この体験は、あこがれとしてぼくの中にずっと残っていた。ぼくはあきらかに、韓国語だけでは物足りなかった。

ずっとしゃべりたくて、でもしゃべれなくて、悔しい思いをしていた英語をやっつけなければ、と思っていた。でも、英語は長年の教育で「**しゃべれないものだ**」という考えがしみついてしまっていた。

それが、韓国に来て、韓国語がそこそこできるようになって「もしかして英語もこの調子でいけるんじゃない？」という考えが芽生えてきた。英語にきちんと向き合っ

挑戦したい、という思いが湧き上がってきていた。

もともと想定していた韓国留学期間は9ヶ月。この時点で、残り4ヶ月ほどだった。5級をあと1ヶ月ほどで修了して、6級へと進む予定だった。そのために、頑張って飛び級をしたのだから。

でも、韓国語は、そこそこできてきていた。このまま6級へ行っても、今の生活の延長にすぎない、と思い始めていた。成長が足りなかった。ぼくはもっと急角度で成長したかった。

語学というこの分野なら、ぼくは急角度で成長ができるのではないかと思っていた。そこで、英語圏への留学というプランが浮かんできた。やるなら、アメリカ英語がいいからアメリカかカナダ。（今だったらフィリピンにする）

アメリカは物価が高いし治安の面で不安もある。カナダは、治安がいいし比較的廉価。ぼくの心は、カナダへと傾いていった。カナダへ行けば、韓国人留学生がたくさんいる、という情報もつかんでいた。

であれば、カナダへ行って英語を学びつつ、韓国人たちとつるんで韓国語会話を練習する、という手もありなのではないか。ぼくはそう考えはじめていた。そうして、クラスメートに相談をした。

クラスにはいろいろな人がいた。日本で定年して来ていた60代のおじさまがいた。日本で国語教師をやっている50代の女性もいた。議員秘書をやってるお兄さんもいた。みんなやさしかった。

2個下の大学生の男の子とはイマイチ仲良くなれなかったw彼らに相談をした。

「このまま韓国にいるか、カナダに行こうか迷っていて」すると、みんな背中を押し

てくれた。「それならカナダに行けばいいんじゃない？」

外国で出会った方々の共通点として、
「**ノリの軽さ**」がある。悩んでたら、とりあえずやってみるやりたいなら、やってみるそんなふうに、とにかくフットワークが軽い。「**いいねえ**」「**それいいじゃん**」
「**やってみなよ**」

的な、ノリの軽さがある。（これに加えて、カナダで出会った人たちにはもう1つの共通点があるんだけどこれはまたの機会に）人生は「**選択**」なのだということをしっかり理解して、やりたいほうを「**自分の責任で**」選んできている人たちだから、結局は「**とりあえず、やる**」という選択になるのかなあとぼくは考えている。

そういうわけでぼくは、水面下で、カナダ行きの準備を始めた。このとき、8月の中旬。9月上旬から中旬に5級を終えて、

10月頭からカナダへ飛ぶ計画を始めた。その前に、当初の目的だった韓国語能力試験の6級もやっつけなければならない。

この試験は9月の中旬にある。ぼくはこの試験に照準を合わせて勉強を始めた。そんなときに学校で韓国語能力試験の模擬試験があった。ぼくは5級クラスだったので5級の試験を受けた。

見事にボロボロだったwww中国人のメイリンに「自分、韓国語能力試験、受けるん？」と聞かれて、「**うん**」と答えた。模擬試験の結果を見て、「それで受かるん？」と聞かれた。

「**あかな**」とぼくは答えた。5級でも壊滅的な点数だった。まさか6級を取るつもりだなんて誰にも言えなかった。試験まで、1ヶ月。ぼくの6級合格への挑戦が始まった。勝算は、なかった。

でも、「戦略」はあった。中学生の時から読み漁ってきた試験合格勉強法をここで発揮するときだった。（つづく）ちなばだ

何も関係ない、ぼくの幼稚園の話

——約6分で読めます——

こんにちは、ちなぼだです。どうもどうも、連日の忘年会で・・・とかのメッセージがTwitter等であふれてますね。ぼくはと申しますと、もう何年も、まともな忘年会というものに参加しておりませんw 新入社員のころは、なんとか一次会だけは参加したものの二次会前にそそくさと帰宅。

去年も今年ももちろんゼロです。平和なもんですね。出費もかさまないし飲みすぎて苦しくなることもない。デメリットは、ほんの少し、さみしいことぐらいですかね。さてさて。

今年はみなさま、それぞれご活躍だったことと思います。ぼくもなんだかかんだか忙しかったりしましたね。それで今日なんですけど唐突に、ぼくの通ってた幼稚園の話をしてしましよう。

韓国語には関係ない、単なるチラシの裏です。興味ない方はここで閉じてくださってOKですとも。**それでは良いお年を！**

・・・でですね。

なぜ幼稚園の話なのかというと、この前ぼくの母親が唐突にですね。「あなた、通ってた幼稚園、モンテッソーリだったって知ってた？」**とか言ってきました**。モンテッソーリって何か？

というと、幼児教育の方法論なんですね。**あの将棋の藤井聡太さんとか**。フェイスブックの**マーク・ザッカーバーグさんとか**。**オバマ元大統領とか**。ビル・ゲイツさ

んとか。そのあたりのエライ方たちが受けたということで最近とみに話題になっていた教育方法なんですね。

でぼくは、自身のこととはまったく関係なく、モンテッソーリってええやんとかって、関心を持ってたんですね。幼児教育関連の仕事に携わってたこともあるもんで、なんとぼくが通ってた幼稚園がそうだったと。

そう言われてみれば、たしかに、違いがありました。ぼく、幼稚園、2つ通ってるんです。**引っ越しが多かった**ので。幼稚園と小学校と中学校はそれぞれ2つずつ通ってるんですね。

で、1つはまったく普通の公立の幼稚園でした。**けっこう違いました**ね。モンテッソーリのほうでは、まず、カリキュラムがないんです。**自分が好きなことをして遊ぶ**。以上。ぼくはこっちが普通だと思って

たんで引越し先の幼稚園で「さあこれから お絵かきの時間です」

とかって、みんなで決まって何か同じことをやるのにびっくりしたわけですが。好きなことをやっていい、と言われて、困らないんです、これが。面白そうな道具が、いっぱい用意してあるから。

ぼくが好きだったのはね。針仕事、って言うんでしょうか。厚紙に絵が描いてあって、それに毛糸付きの針を通して形どるとか。それとか、機織り機があったりして。自分のマフラー作ったりしましたね。

それと、絵の具。試験管？て言うんでしたっけ、細長いガラスのくだ。それに水を入れて、色を溶かして、こっちのをあっちに混ぜて、色が変わって・・・とか。あとは、折り紙とか。

鬼ごっことかも普通にやりましたね。そういう感じ。とにかく、いろんな道具が

用意されてて好奇心が刺激されるままに好きなことができる環境でした。それと、特徴的だったのは学年ごとに分かれてないことですね。

年上の子、年下の子が一緒になってる縦割りのクラスでした。お弁当の時間とかは、年上の子たちがお当番になって、お茶をくんだり準備してくれるんです。とにかく自然に、人の世話をしたりとか、教えたりとかを経験できるようになってる感じでしたね。

キリスト教系の幼稚園だったので、シスターと呼ばれる女性たちがいましたね。べつにうちはキリスト教じゃなかったですがただ近所の仲良しさんの息子が通ってたからうちの親もそこに入れたんだと思います。

誕生日の人は、シスターに呼ばれるんです。そいで行ってみると、立派なケーキと

お茶が用意されてて。誕生日の子と、シスターたちでケーキをいただくんですの。いま考えると、シスターたちはけっこうな頻度でケーキを食べてることになりますよねw誕生日の子が毎日のようにいるんだから。

引越し先の幼稚園では、月に1回、全員でお祝いが有りましたね。全員に平等にお菓子が配られる。おばあちゃんのぽたぽた焼てきな。そういう違いも印象的でした。こういう差異は、書いていけばすごいいろいろあるんだけど。

でもね、かなりぼくに合ってる教育方法だったなあって思うんだ。今でもぼくは、ほうっておくと、好きなことをえんえんやり続ける。生活の中での優先順位が1位になる。食事よりも、睡眠よりも、上に来るんだわ。

だからユーチューブにはまってたときはひたすら動画制作をしていた。ひたすら動画を作って、終わったら次の動画をつくって、そういえばご飯も食べてなかったからパンを少しかじって、また動画をつくって、ちょっとベッドに横になって寝て、20分ぐらいしたら動画をつくりたくて目が覚めてまた動画作りをはじめて・・・っていう。

最近も、あることにすごく夢中になって、ものっそい楽しく取り組んでる。ひたすら勉強もしてる。早くやりたくてやりたくて仕方がないかんじ。頭の中はそれでいっぱい。気がつくと、そのことを考えている。

もっとうまくやる方法を常に探している。それでもぼくは、この韓国語のメルマガとかブログとかTwitterとかユーチュー

ブとかそのことを考えなかった日は一日もないんだ。

発信しなかった日のほうが多いけど。でも、あ、これ伝えたいな、とかこの話はブログに書きたいなとか、次のメルマガ何書こうかなとか、ずーっと考えてるんだよね。毎日。一日も欠かさず。

今年、あることがあって、もし、一生何もしないでよくなってすべてが自由になったら、どうするかというのを真剣に考えたんだけど、あれは要らない、これも要らない、とはぶいていったときに、最後に残ったのは、韓国語（あるいは語学）の情報発信だなあって思ったんだ。

書いて、送らなかったメルマガは、送ったメルマガの数以上に多いけど、書いて、アップしなかったブログは、アップしたブログの数以上に多いけど、録音して、上げなかったユーチューブは、上げたユー

チューブの数以上に多いけど、それでも、
できるだけ、ぼくの発信に価値があると感じてくれる人へ向けて、これからも何かしら、伝えていけたらいいな、と思っています。

じゃあそんな感じで。今年一年ありがとうございました。よいお年を！！！！また年内何かしら送るかもしれんけどwwちょなばだ

上海に行ってきました

——約4分で読めます——

こんにちは、ちなぼだです。韓国語の勉強方法やらYouTubeやらをやっておる者です。このメールが半年ぶり、という方もいると思うので、誰だっけ??という方がいらっしゃるのも当然ですゆえ、さて、ということで、ここからはまだ読むよという方へ向けていつもの感じで書いていきます。

お元気ですか？寒くなったりあれだったり、なんだかなあ、ですよね。ぼくはといえば、ちょっと上海に行ってきました。ほら、ぼくって、中国好きじゃないですか。留学行くときも韓国に行くか中国に行くか迷ったぐらい。

当時はハングル検定と中国語検定そろって準2級に落ちた感じでしたからね。**そんなわけもあって十数年ぶりに上海へGO!** 上海はといえば、はじめて行ったときにけっこう好きになって「住みたい！」

って思った街です。住みたいと思ったのは上海とソウル。**以上**。いやー変わったところと変わってないところありましたね。順番待ちせずにガンガン割り込んで来るところとか。

うら若き女性が突如かーぺってつばを吐くところとか。そういうところはまったく変わってなくて安心しました。でも中心街はさすがに発展した感があったよね。おっきなファッションビルがめっちゃ乱立してる感じ。

さすが人口2,424万人都市。あとみんな化粧が劇的に下手でした。日本で普通レベルの化粧スキルがあれば上海ではカリスマ

になれる感じ。ファッションも僕が言えたことじゃないけどなぞすぎる。

街なかでしゅっとした人がいると思ったら、それはもれなく韓国人または日本人（または欧米人）。**って感じでした。ぜひチェキラしてみてくださいね！**以上はまあどうでもいいんだけど、上海に行こうと決めた瞬間に目の前がぱーっと明るくなりまして。

やっぱりね海外好きは海外行ったほうがいいね。好きな都市に行くことを決めた瞬間ドーパミンが出て頭が活性化しはじめる。中国語の勉強も参考書をいろいろひっぱりだしてきて耳にイヤフォンつっこんで突如再開したりする。

そういうことってあると思うんだ。ぼくも、第二言語習得論とか認知言語学とか、あらためて本を読んでみたりして。だからね、もし可能なら、韓国旅行の計画を入れてみるのはめっちゃいいと思うよ。

それか、ぼく最近GYAOであれこれ韓国ドラマを見てるんだけども。それもあってね、ぱーってひらめいた。ちょっとなんか教材つくれないかなと思ってるんだ。他人の教材づくりはさんざん手伝ったことあるんだけど。

英語とかフランス語とか中国語とかの教材やら講座やらね。ちょっと、自分オリジナルのでできそうなことがあるかなとアイデアが湧いてきて。なので、年内・・・はあれかもだけど。

そのうちできたらなーと思ってはるよ。やっばしいくつになっても脳みそを鍛えないといかんのよね。**もう、ぼける。本当に。**認知機能は、使わないと、衰える。これほんと自分でも実感してる。

だから、自分に負荷をかける。新しいことをする。新しいことを覚える。お勉強をする。人のためになることを考える。そゆ

感じ。じゃあまたね。■追記上海でホテルはなんか安かったのスイートに泊ってみたwそんで朝はやく到着して、無理かなーと思ったんだけど朝7時にチェックインさせてくれて。

その時間から部屋に入れるわ、ラウンジで朝食は食べられるわでもものっそいよかった！ぼくはいつも同じ系列のホテルに泊まるようにしてて、その上級会員なんだけど、それが効いた感じ。っぼい。

ちなみに上級会員になるには裏技があって、普通は何十泊しないといけないところをゼロ泊でいける。アーリーチェックインや14時までのレイトチェックアウト、空きがあれば部屋のアップグレード、特別価格での宿泊などなど特典満載で上級会員になる価値あり。

そのやり方もまたいつかお伝えするかもしれないししないかもしれない。■追記2

韓国でも同じ系列に泊まるんだけど、中国のほうがホスピタリティすごかった。

チェックイン時のおにいさん、ラウンジのおねいさん、どっちもすごかったんだけど、異性だったら「まるで相手に惚れているかのように接する」

同性だったら「めっちゃ慕ってる先輩であるかのように接する」ってゆうアプローチがすごい効くんだろうなと感じたよ。あの松田聖子さんに会った人はみんな「絶対自分に気があると思った」って言うらしいし。

ただしこれはあとあと面倒なことになるかもしれないので使い方は要注意。でも、ホスピタリティとか相手を気分良くさせる接客の1つの方法ではあると思ったよ。そんな感じ！

ちなばだ

フランス語、はじめます

——約3分で読めます——

こんにちは、ちょなばだです。今日からフランス語をはじめることになりました。**お勉強をね**。そんでとりあえずサクッと仏検3級を取りたいと願望しております。なんでこういう気持ちになってかと申しますとこういう経緯がございまして。

妻ばだ：

ねえ、フランス語できるようになってよ。

ちょな：

へ？フランス語？

妻ばだ：

うん。フランス語できたらよくない？

ちな：

え・・・なんで？

妻ばだ：

フランス語できたら、

フランス行ったとき楽しいじゃん。

ちな：

でもフランス人、

英語できるよ？

妻ばだ：

英語だとばかりにされるんだよ。

ちな：

でもフランス行ったとき

親切にしてもらったよ？

妻ばだ：

でも日本に来てるフランス人に

フランス語で話せたら良くない？

ちな：
日本に来るフランス人は
英語できると思うよ。

妻ばだ：
でもフランス語ができたらよくない？

ちな：
うん・・・

でも、フランス語やるなら、英語とか中国語をもっと勉強したほうがいいじゃないかな？

妻ばだ：
中国語は私に任せて。
二人かぶってもしょうがないじゃん。

ちな：
まあ、、、そうかな。

妻ばだ：
それに、フランス語やったら

英語がうまくなるって
書いてあったよ。

ちな：
え？たしかにそうらしいけど、
どこか書いてあった？

妻ばだ：
なんか書いてあるのあったよ。

ちな：
どれどれ・・・（検索する）

そうか、、、たしかになあ。でもフランス語って習得にどれぐらい時間かかるんだろう？（検索する）3級で200時間1級で600時間って、まじ？**余裕じゃん。**

妻ばだ：
うん、余裕だよ。

ちな：

まあ普通の人で半分でいけるし。

妻ばだ：

3分の1でいけるんじゃない？

ちな：

まあそうだよね。

じゃあとりあえず3級取るか。

妻ばだ：

うん。それでフランス住んで

YouTuberしたらいいじゃない？

ちな：

お、おう・・・

(完) というわけで、とりあえずフランス語、やることにしました。ちなみに今のフランス語レベルはほぼゼロに近い。独学でやろうと思ったことは3回ぐらいあるん

だけど、参考書5ページぐらいしか進まなかった。

なのでほぼゼロ。文字の読み方すらわからない。ボンジュール、メルシー、ジュマペール誰々・・・ぐらいしかわからない。そういうレベルからちょっとやっていこうと思う。さくっと、短期集中でとりあえずやっていく。

目的は、英語レベルをもっと上げること。フランス語の習得にちょっと寄り道したほうが結果的に英語で高いレベルに到達できるらしい。んで、ほんとか知らんけど3級は200時間でいけるらしいし1級も600時間らしいからそんぐらいならいいかな、と。

調べてみたらゼロから3ヶ月で3級に受かった人のブログとか出てきた。**なのでぼくもいけるんじゃない？的な。**この「いけるんじゃない？」「余裕じゃない？」っていうカ

ンチガイは語学に対するぼくの高い自己効力感のなせるわざ。

1 カ国語身につけたらその後はほんと早いからね。コツがわかってるし自己効力感が高まっているから。そういう感じでフランス語やっていくよーとゆう話。ゼロから新しい語学を学んでいく中で、「ゼロからどうやっていくの？」

とか、つまづきやすい点とかそういうのを発見・シェアしていけたらなと思ってます。ちなみにほかのものに興味に向いたらある日突然やめるかもしれん。**のでそのあたりよろしく。**

じゃあまたね！ ちなぱだ

韓国語と、ぼくの話。

第五卷 韓国留学記

全七巻

著 ちよなぱだ

かつて配信していたメールマガジンより

「わたしを語る韓国語」プロジェクト